

(2018, 2, 21)

ピンクシャッター2018 in 神奈川

～「いじめストップ!」ワールドアクション～

実施企画書

ちがう国籍。ちがう文化。ちがうファッション……。

ちがうことはあたりまえ。

ちがうことは大切な個性。

だからこそ、たがいを認め合う神奈川に。

共に生きる神奈川に。

ピンクシャッター2018 神奈川推進委員会

1. ピンクシャツデーとは…

カナダの2人の高校生の行動をきっかけに、2008年に始まったいじめ防止の取り組みです。

ピンクのシャツを着て登校した男子生徒がホモセクシャルとからかわれ、いじめにありました。それを知った2人の上級生が、50枚のピンク色のシャツを買い込み、友人たちに配布。翌日登校すると、呼びかけに賛同した多くの生徒がピンクのシャツやピンクの小物を身に着けていました。学校中がピンク色に染まり、いじめは自然となくなっただそうです。

このエピソードが地元メディアに取り上げられ、カナダ全土に広がりました。バンクーバーのある、ブリティッシュ・コロンビア州知事が2月の最終水曜日を“ピンクシャツ・デー”と宣言。今ではSNS等で世界中に広まり、70か国以上で様々な「いじめストップ!」に関する活動が行われています。

☆カナダでは消防士、プロスポーツ選手もピンクシャツデーに参加。



☆BC プレイスもカナダプレイスも、この夜はピンクに照明。



2. 「ピンクシャツデー2018 in 神奈川」実施概要

1) 趣 旨

2016年度の県内の公立小中高と特別支援学校におけるいじめ認知件数は14,375件と過去最多となっています。他の人の尊厳や命を踏みにじるような事件も相次いでいます。

こうした状況の中、ピンクシャツデーキャンペーンを通して、人々の中にある「偏見や差別」と向き合い、多様性を認め合う姿勢を積極的に発信していきます。そして、傷ついている子どもたち等へ、「そばにいるよ」とのメッセージを送り、わたしたちみんなが共に在ることを表明します。ピンクシャツの輪を神奈川に広げ、子どもや若者が生きる喜びと未来への希望を育める地域社会になることを目指します。

2) 取り組みの概要

- ◆2018年2月をピンクシャツデー月間とし、2月28日(水)にキャンペーンイベントを開催する。

①キャンペーンイベント

- ◆日時：2018年2月28日(水) 13時～18時
- ◆場所：新都市プラザ催事スペース (横浜駅東口そごう前広場)
- ◆内容：
 - ・アコースティックデュオ N.U.によるコンサート
 - ※声優によるミニ朗読劇『ハッピーバースデー』(協力/オフィス・デュオ)
 - ※虐待といじめを描いた原作は150万部のロングベストセラー。神奈川県子ども未来ファンドが10年にわたり、朗読劇公演を県内各地で開催し、好評を博した。再演を望む声が多く寄せられている。
 - ・横浜市立領家中学校吹奏楽部演奏
 - ・パネル展…ピンクシャツデーに関する写真等
 - ・NPO法人「ここから未来」…いじめ自死の中高生からのメッセージ等
 - ・そごう前広場のワイド画面で動画を流す(関係企業様に協力をお願いする)
 - ・ピンクのシャツを着用した個人、団体、企業等の写真をパネルに貼る。

②ピンクシャツデーナイト

- ・横浜マリニタワー、みなとみらい観覧車、八景島シーパラダイスがピンク色にライトアップ。ピンクシャツデーのフィナーレとする。

③メッセージツールの作製

- ・チラシ、ポスターを作製し、公共の場へ貼付する。

④ユーチューブ動画の制作発信。

- ・参加者、団体のメッセージや映像等をつなぐ。

3) 組織概要

◆推進主体

ピンクシャツデー2018 神奈川推進委員会

※カナダ発祥のピンクシャツデーに賛同し、その活動を通して、互いの命と尊厳を守る地域社会となることを願い、集まった組織・市民が構成する任意組織です。

- 特別顧問 / 黒岩 祐治（神奈川県知事）
林 文子（横浜市長／運動発祥の地・バンクーバーと姉妹都市）
佐藤 光（神奈川県議会議長）
松本 研（横浜市会議長）
- 推進委員長 / 山崎美貴子（神奈川県立保健福祉大学前学長）
- 特別推進委員 / 田口 努（公益財団法人横浜 YMCA 総主事）
坂田 清一（神奈川県人権擁護委員連合会会長）
- 副推進委員長 / 山添 訓（公益財団法人横浜 YMCA 本部事務局長）
吉富 多美（認定 NPO 法人神奈川子ども未来ファンド理事）
- 監 事 / 大川 哲郎（NPO 法人横浜スタンダード推進協議会副理事長）
工藤 誠一（神奈川県私学団体連合会会長）
- 推進委員 / 馬場 洋一（認定 NPO 法人神奈川子ども未来ファンド理事長）
鈴木 一男（株式会社ダイイチ代表取締役会長）
鎗分 達文（神奈川新聞社地域連携局次長）
堀本久美子（神奈川県弁護士会所属弁護士）
東 幾世（株式会社テレビ神奈川取締役営業本部長）
加茂 大輔（神奈川県生産性本部事務局長）
小林 正明（神奈川県生活協同組合連合会代表理事専務）
坂井 雅幸（認定 NPO 法人神奈川子ども未来ファンド理事、横浜貿易協会常務理事）
- オブザーバー / 横溝 克明（神奈川県県民局次世代育成部青少年課長）
宮村 進一（神奈川県教育局支援部子ども教育支援課長）
佐々井正泰（横浜市市民局人権課啓発等担当課長）
近藤 浩人（横浜市教育委員会人権教育・児童生徒担当課長）
- 事務局 / 認定 NPO 法人神奈川子ども未来ファンド

◆協力：(特非)フリースペースたまりば、(特非)CAP 神奈川、(特非)ファザーリング・ジャパン、(一社)ここから未来、STaRT かながわ、横浜高島屋、そごう横浜店、横浜岡田屋、京急百貨店、JR 東日本横浜支社、(株)川口、よこはまコスモワールド、横浜・八景島シーパラダイス、横浜マリントワー

◆後援：神奈川県、神奈川県教育委員会、横浜市市民局、横浜市教育委員会、神奈川県人権擁護委員連合会、(社福)神奈川県社会福祉協議会、神奈川県弁護士会、(公社)神奈川県医師会、(一社)神奈川県歯科医師会、(公社)神奈川県病院協会、(公社)神奈川県看護協会、(一社)神奈川県経営者協会、(一社)神奈川経済同友会、神奈川県商工会議所連合会、神奈川県商工会連合会、神奈川県中小企業団体中央会、神奈川県生産性本部、(公社)横浜貿易協会、(一社)神奈川県情報サービス産業協会、横浜青年会議所、神奈川県生活協同組合連合会、連合神奈川、神奈川県高等学校教職員組合、横浜市教職員組合、神奈川新聞社、毎日新聞横浜支局、読売新聞東京本社横浜支局、日本経済新聞社横浜支局、t v k、FM ヨコハマ（2月21日現在）

3. 推進委員会の取り組みを担う団体の概要

◆公益財団法人 横浜 YMCA

青少年の成長を願ってロンドンで誕生した団体です。現在では世界 119 の国と地域に広まり、5,800 万人以上が活動する世界最大規模の非営利団体です。

職業教育、語学教育、健康教育、野外教育、保育事業、国際交流活動など、幅広く事業展開しています。

また、人間性が尊ばれ、公正で平和な世界の実現を目指し、地域社会に深く根ざした活動を展開しています。

◆認定 NPO 法人 神奈川子ども未来ファンド

子ども・若者の育ちや子育てを社会で支えるための非営利の市民基金です。広く寄付を募り、神奈川県内で子育て・子育てを支援する NPO へ、公募、選考を経て助成しています。2004 年から 2017 年までの 14 年間に、延べ 97 団体へ総額 3,440 万円の助成を行いました。

また、子どもたちの現状を、セミナーや朗読劇等で広く社会へ発信し、子どもたちが生きていることに誇りと喜びをもてる地域社会を目指して活動しています。

(参考) これまでの取り組み (いじめ防止キャンペーン)

☆横浜 YMCA： 2014 年から「PINK SHIRT DAY」に取り組んでいます。2017 年 2 月には文部科学省後援のもと、「YMCA ピンクシャツデー 2017」を開催しました。全国 YMCA の施設や各事業所において、いじめ、人権、差別、偏見などについて考える機会と捉え、メッセージを発信しています。



☆神奈川子ども未来ファンド： 横浜駅東口そごう前広場で、「いじめストップ！」キャンペーンを開催。その様子は NHK 全国ニュースで紹介されました。(2017 年 8 月 12 日)



いじめを原因とする自死で子どもを亡くした親の会「ジェントルハートプロジェクト」も参加。子どもたちの天国からのメッセージパネルには、たくさんの方が足を止めていました。



子どもファンドセミナー2017・3回シリーズの第1回のテーマは「いじめの深層」。講師は篠原宏明さんと北村年子さん。スタッフは全員ピンクシャツを着用しました。(2017年9月3日)

☆その他の取り組み事例：2015年からピンクシャツデーに取り組んでいる企業様では、本社、各拠点の従業員がピンクのシャツを着て一日を過ごしました(2016年2月22日)。未来に責任を持てる仕事をと、思いを新たにしています。



4.ご支援のお願い

1) ご協賛

◆本活動は、皆様からのご支援によって支えられています。子どもたちへ生きる希望を届けるために、議論を重ね、広報普及活動、イベントなどの事業を進めていきます。そのため、活動資金が必要です。趣旨をご理解いただき、是非ご協賛くださいますようお願い申し上げます。

ご協賛いただいた皆様、企業・団体様のお名前を2018年2月28日のイベントでパネル掲載させていただきます。(詳細は別紙のとおり)

2) 活動へのご参加

◆企業・団体の従業員様、スタッフの皆様、市民の皆様に、ピンクの小物やシャツ等の着用をお願いいたします。県内各地域にピンクの波を起こしましょう。

◆社内やお店、団体やご家庭でピンクシャツを着用、あるいはピンクの小物、ピンクのルージュ、ピンクのマニキュアなどをつけて、子どもたちにエールを送りましょう。

写真等を、2月28日までに神奈川県子ども未来ファンドのメールアドレスへお送りください。エールの輪をつないでいきます。

3) ご協力

◆ピンクシャツデー2018 神奈川推進委員会の活動へサポーターとしてご登録いただき、広報やイベント等にご協力をお願いいたします。

◆いじめや貧困・虐待といった子どもの抱える課題については、メディアの注目も集まっています。2017年8月12日に開催した神奈川子ども未来ファンドのイベント「いじめストップ」キャンペーンも、NHKを始め報道各社等の取材が入り、NHK 全国ニュースで紹介されました。今回のキャンペーンにおいても、神奈川から全国へと発信されるよう取り組んでいきます。取材要請があった場合は、ご協力の程よろしくご願いたします。

◆ピンクTシャツ、長袖ワイシャツ等をピンクシャツデー2018 神奈川推進委員会事務局にて販売いたします。ご要望の際はファクスかメールで事務局までお申し込みください。

◆ピンクシャツデーの取り組みに関するご提案、ご意見もお待ちしております。

事務局／／認定NPO法人 神奈川子ども未来ファンド内

ピンクシャツデー推進委員会事務局

〒231-0001

横浜市中区新港 2-2-1 横浜ワールドポーターズ6F NPO スクエア内

TEL&FAX : 045-212-5825

E-mail : info@kodomofund.com